

学位論文審査の要旨

学位申請者	鈴木 伸子 【比較社会文化学専攻 2014年度生】	要 旨
論文題目	新卒若手外国人社員の日本型雇用システムへの適応とキャリア形成に関する研究 一文系総合職として入社したアジア出身元留学生へのインタビューから	<p>本研究は、元留学生のアジア系留学生が、卒業後、日本企業に文系総合職として入社したときの日本型雇用システムへの適応とキャリア形成を明らかにすることを目的としている。研究1では会社指示の初職配属に、研究2では初めての異動に、研究3は中小企業勤務でしばしば発生する母国に置かれた海外拠点への異動に、そして研究4では女性に注目して、それぞれ研究課題を設定した。研究対象者は、該当する外国人社員11名で、彼らに対しインタビューを行い、その結果をM-GTAによって質的に分析した。</p> <p>その結果、外国人社員は、日本企業入社後、独特の人材育成の枠組に嵌められ、日本人社員と同じ水準に至るまでは外国人としての苦手を甘受し、克服しなければならないが、その水準に至った後は、外国人としての強みを生かした働き方が可能となる、というキャリア形成のプロセスがあることが明らかになった。このプロセスをBerry (1997) の「文化変容ストラテジー」を用いて検討すると、日本企業の外国人社員は、入社時に「同化」の時期があるが、その後、成長するにつれて文化的特徴を活かして組織に貢献する「統合」に至ると言える。</p> <p>本研究は、Berryの既存のモデルでは想定されていなかったストラテジー間の移行という現象を指摘し、Berryの文化変容ストラテジー理論に新たな視点を付加したものとしてその研究の意義が認められると判断した。</p> <p>審査は合わせて二度行われた。1回目の審査では、M-GTAの結果の書き方や批判的アプローチが弱いこと、論の展開やデータの提示の仕方などに問題点が指摘された。申請者はこれらについて改稿を行い、審査委員に再送付され、公開発表・最終審査に進んでよいとの判定が下された。9月2日に行われた公開発表会でのプレゼンテーションでは論文の内容がわかりやすく説明され、質疑応答にも丁寧に回答していた。その後行われた最終審査会では、第1次審査でのコメントに従いの確な修正がなされていることが確認され、全会一致で博士（人文科学）（Ph. D. in Humanities）が授与されることが決定した。</p>
審査委員	(主 査) 教授 森山 新	
	(副 査) 教授 熊谷 圭知	
	(副 査) 助教 本林 響子	
	(審査委員) 講師 櫻井 勇介	
	(審査委員) 教授 谷口 明子 (東洋大学)	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由：ウ</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	